

教育DXレポート

同志社香里中学校・高等学校

一人一台端末を活用した探究学習

今回は2024年2月に訪問した同志社香里中学校・高等学校のICT活用についてご紹介します。

ICT端末は文房具のような存在

学校全体で、PCなどのICT端末は、文房具のように使いこなせるようになって欲しいというスタンスで活用しています。

探究をはじめとして課題を提出する際は、Google Classroomを使っていますが、その他は何を使うかは教師側で特に指定しておらず、生徒たちがその時その時に合わせて必要なソフトを選んで活用しています。

メモなどはGoogle docsを使っている生徒が多いですが、本格的にレポートを書くときには、MicrosoftのWordを使う生徒も多いです。メールアカウントは1人1つ渡していて、校内に関しては自由に使えるようにしてあります。

繋真館（メディアセンター）への図書購入のリクエストなどもメールのできるの、探究学習時に自分が読みたい参考文献のリクエストを出して、学校に購入してもらうことが可能です。

ICT活用の自由度を高めることで
自立的な学習者に

生徒のICT端末使用の自由度が高いことが本校の特徴です。導入の際、校内でも様々な意見が出て、議論を重ねてきましたが、現在は規制をなるべく最小限にしています。不適切なワード検索や、ショッピングサイト、YouTube等へのアクセスは制限していますが、生徒たちの着眼点は非常に面白いので、あまり狭めすぎず、興味を広げてほしいと思って自由度を高くしています。自由度が高いことで、自然と自立的な勉強の仕方が身についていくと考えています。

卒業研究での活用

同志社香里中学校・高等学校の探究の最終的なゴールは、卒業までに各人で設定したテーマに関する卒業研究をまとめることです。

卒業研究をまとめるにあたり、必要な知識やスキルをそれまでに身につけます。高校2年生の前半までは、自分の好きなテーマを決めて調べたり、発表したりする過程を通して、基礎的なスキルを身につけ、高校2年生の後半で、本格的に「リサーチクエスト」を定めていきます。

卒業研究の核となる「リサーチクエスト」の精度（オリジナリティがあるか？テーマが広すぎないか？等）を上げるため、インターネットや書籍から様々な参考文献を集めます。

高校3年生からは自分の「リサーチクエスト」のテーマごとに、クラスの半分ぐらいの規模のチームに分かれ、ゼミに近い形で探究を進めていきます。

その都度、教師と生徒や生徒同士で相談しながら、具体化や抽象化を繰り返し、適切な「リサーチクエスト」が設定できるよう各自でいろいろ試しています。

このような探究活動を行う際にICT端末は欠かせない存在になっています。

同志社香里中学校・高等学校の取材記事の詳細はこちらに掲載しています→是非ご覧ください！



コアネットでは6月27日(木)に「教育DX先進校に学ぶ！」と題して教育DX先進校の方からお話を聞くことができる無料セミナーを実施します。詳しくは裏面をご覧ください！